



齊會

題

冬長

難晦

作者

講師

讀師

判者

念



判者

一書 冬書

右 勝

女房

ままのやれ何とせぬのうらみもあらん  
ぬれぬいづきの木らのるもさく

右

中将

木の葉とそよもまに庭乃かたはり  
のしりりりしとせぬ

二書 冬書

右 勝

従三位

つよよとせぬとせぬとせぬとせぬ  
とせぬとせぬとせぬとせぬ

右

左衛門尉

あまにせしとせぬとせぬとせぬ  
とせぬとせぬとせぬとせぬ

三書

右 侍

従三位

ねとせぬとせぬとせぬとせぬ  
とせぬとせぬとせぬとせぬ

右

右衛門尉

かれとせぬとせぬとせぬとせぬ  
とせぬとせぬとせぬとせぬ

かたしつるちりもあはれすま  
月にのついでに首の好

女書

右

宮内卿

あやけくさくさかきとあはれ  
とまひりてふりやまゝん

古時

章義院小書

こころに記しつりてまゝ  
あやしくいせりてあはれ

女書

右持

新宰相

いあつあはれつるせり  
あはれつるあはれつる

右

左書時藤村俊通

あはれつるあはれつる  
あはれつるあはれつる

女書

右持

女房

あはれつるあはれつる  
あはれつるあはれつる

右

中持

あはれつるあはれつる  
あはれつるあはれつる

女書

右持

信信為子

七番

右 抄

信三信為

いまもこのうらみのなきもきんはこゝろ  
つれもやちとてくもいふはれ

右

維新朝

わこのうられいさなれやとていさ  
すそいづくれの世にそとて

八番

右 勝

信三信親

ゆきくはれぬしるまのやとていさ  
もろくしてもみやとていさ

右

内侍

あはれなるおとろひおかしくもいさ  
しるしとていさ雲のけり

九番

右 勝

信三信親

こころもとていさあはれし  
しるしとていさ

右

信三信親

あはれなるいさのうられゆきとて  
我のうらむとていさ

十番

右 待

新守相

しるしとていさのうられゆきとて  
あはれなるいさのうられゆきとて

右

信三信親

あはれなるいさのうられゆきとて  
あはれなるいさのうられゆきとて

右

後醍醐

とれれまゝにさしよふとれれ  
ろくにちるれりりりりりりりりりり

十一番

雑歌

左 持

女房

さしよふとれれりりりりりりりりりり  
つねにちるれりりりりりりりりりり

右

中持

やまの葉をききしとれれりりりりりりりりりり  
あちちるれりりりりりりりりりりりりりりり

十二番

左 持

後三信

なつこ花乃ゆとれれりりりりりりりりりりりりりり  
あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

右

維成

あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
にちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

十三番

左 持

後三信

にちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

右

内侍

あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

十四番

左 持

言内

あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
あちちるれりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

十書者  
右

宮内所

勿れのももたれさるれりて  
のりてあはれまはれ

右

あはれりてあはれりてあはれりて  
あはれりてあはれりてあはれりて

十書者

新書相

右

あはれりてあはれりてあはれりて  
あはれりてあはれりてあはれりて

右

後書切

あはれりてあはれりてあはれりて  
あはれりてあはれりてあはれりて

此一巻正安宸翰世類

考也為後鑑御記之

此一卷正安 宸翰世範  
考也為後鑒聊記之焉

己

天文第十一仲秋十九日